

(雑 録) 2004年9月—2007年3月まで

I. 学会誌等発表論文

有明海における水質環境の水平分布と経時変化
(2005) 横内克己・半田亮司・川村嘉応・吉田雄一・山本憲一・清本容子・岡村和麿・藤原 豪. 海と空, 80(4) 1-22.

三根崇幸・川村嘉応・上田拓史 (2005): ソウジミジンコ (新称) *Amphiascus* sp. (カイアシ亜綱, ソウジミジンコ目) によるノリ糸状体培養カキ殻の付着珪藻除去効果. 日本水産学会誌, 71(6), 923-927.

横尾一成・関本訓士・川村嘉応・本多大輔 (2005): 養殖ノリに被害を及ぼす壺状菌 *Olpidiopsis* sp. のPCRによる早期検出 日本水産学会誌, 71(6), 917-922.

Y. Kawamura, K. Yokoo, M. Tojo, M. Hishiike (2005): Distribution of *Pythium porphyrae*, the causal agent of red rot disease of *Porphyra* spp., in the Ariake sea, Japan. Plant Disease, 89, 1041-1047.

古場慎一・森 徹・中房淳司・三砂範幸・成澤 寛・吉田昌人・川村嘉応 (2005): 10月に発症した *Vibrio vulnificus* 感染症の1例—特に海水温について—. 皮膚科の臨床, 47(4), 615-619.

山元憲一・半田岳志・後藤政則・伊藤史郎・川原逸郎 (2005): リシケタイラギの換水に及ぼす硝安と酸処理剤の影響. 水産増殖, 53(4), 391-396.

T Yamaguchi, S Ito, K Hamasaki, S Kitada (2006): Stocking effectiveness of hatchery-released kuruma prawns estimated by two-stage sampling of commercial catch in Ariake sound, Japan. FISHERIES SCIENCE; 72: 233-238.

Y Maeno, T Yurimoto, H Nasu, S Ito, N Aishima, T Matsuyama, T Kamaishi, N Oseko Y Watanabe (2006): Virus-like particle with mass mortalities of the pen shell *Atrina pectinata* in Japan. DISEASES OF AQUATIC ORGANISMS Dis Aquat Org (71), 169-173.

II. 各種雑誌等, 書籍

川村嘉応 (2005): ノリ 水産増養殖システム 貝類・甲殻類・ウニ類・藻類 (森勝義編). 厚生社厚生閣, 1-22. 東京.

III. 研究会シンポジウム報告書

大隈 斉(2005): アゲマキ回復策について. 第14回沿環連ジョイント・シンポジウム—有明海再生をめざして—講演要旨集.

川村嘉応 (2006): ノリ安定生産および有明海的环境保全に関する研究.

第2回 さが新技術フォーラム—都市エリア産学官連携促進事業—講演要旨集.

IV. 調査報告書, 事業報告書

・久野勝利・三根崇幸・川村嘉応 (2005): 有明海の海洋環境の変化が生物生産に及ぼす影響の解明 農林水産技術会議事務局 pp.127.

・久野勝利・三根崇幸・川村嘉応 (2005): 有明海の海洋環境の変化が生物生産に及ぼす影響の解明. 農林水産技術会議事務局研究成果432, 85-90.

V. 学会における口頭発表

菱池政志・東條元昭・川村嘉応・横尾一成・大木 理 (2003) 有明海の海底の泥から分離された *Pythium oligandrum* の同定と性状調査. 平成15年度日本植物病理学会関西西部会講要 p.47.

東條元昭・菱池政志・横尾一成・川村嘉応・大木 理 (2004) 有明海の海底の泥におけるノリ赤腐病菌 *Pythium porphyrae* の分布域と生息密度. 平成16年度日本植物病理学会関西西部会講演要旨 p.48.

1. 日本水産増殖学会第3回大会 (2004/9/17)

・2003年の有明海におけるタイラギ浮遊幼生の空間的分布

ユリ本達也・前野幸雄・相島 昇・筑紫康博・吉田幹英・伊藤史郎・川原逸朗・山本憲一・藤井明彦・松田正彦・平山 泉・那須博史・渡辺康憲

2. 魚病学会 (2004)

・タイラギ大量死に関する病理学的検討

ユリ本達也・前野幸雄・伊藤史郎・川原逸朗・松山知正・釜石 隆・犬迫典久・平山 泉・那須博史・渡辺康憲

3. 日本ベントス学会, 日本プランクトン学会 (2004/9/24-26 愛媛大学)

・有明海におけるタイラギ稚貝及び浮遊幼生の分布—22年前と比較した2003年の分布量と分布域

輿石祐一・鈴木健吾・ユリ本達也・前野幸雄・相島昇・筑紫康博・吉田幹英・伊藤史郎・川原逸朗・山本憲一・藤井明彦・松田正彦・平山 泉・那須博史・渡辺康憲

- ・有明海高濁度水域の有鐘織毛虫群集の分布
関 大悟・上田拓史・三根崇幸・川村嘉応
- 4. 日本水産学会大会 (2005年4月, 東京海洋大学)
 - ・色落ちノリ色調の簡易評価技術の開発-I 一生ノリと乾ノリの色調評価およびその相互関係-I. 久野勝利・川村嘉応
- 5. 日本水産学会大会 (2006年4月, 高知大学)
 - ・有明海に生息するサルボウガイの生殖腺の発達およびグリコーゲン量の周年変化
ユリ本達也, 前野幸男, 森勇一郎, 伊藤史郎, 田中勝久・木元克則
 - ・有明海奥部六角川河口域におけるスズキ稚魚の分布と食性
藤田真二・木下 泉・青山大輔・川村嘉応・碓井利明
 - ・有明海湾奥部サルボウ漁場における微細気泡噴流式底質改善装置 (Micro Bubble Jetter)n の効果試験
藤田孝康, 森光典, 田中勝久, 岡村和麿, 児玉真央, 森勇一郎
- 6. 日本海洋学会 (2005年3月 東京海洋大学品川キャンパス)
 - ・有明海湾奥部サルボウ漁場における貧酸素水塊底質環境の変動過程

田中勝久, 児玉真央, 藤田孝康, 木元克則, 岡村和麿, 森勇一郎

VI. 研究会等における講演及び口頭発表

- ・日本分析討論会 (北見工大, 2005, 5.14)
堆積物とノリの炭素及び窒素安定同位体による有明海の環境診断
金倫碩・上田真吾・高 春心・川村嘉応・片瀬隆雄
- ・第14回沿環連ジョイント・シンポジウムー有明海再生をめざしてー (2005/11/19 熊本県立大学) アゲマキ回復策について 大隈 斉
- ・第9回低平地市民フォーラム 有明海の底棲生物再生と干潟回復の道をさぐる (2005/11/29 佐賀県立美術館ホール) 地域コンソーシアム「有明海」成果報告 大隈 斉
- ・水産育種ワークショップ (2005/10/26 中央水研)
ノリ品種開発の現状と展望 川村嘉応
- ・第2回 さが新技術フォーラムー都市エリア産学官連携促進事業ー (2006/3/8 マリトピア) ノリ安定生産および有明海の環境保全に関する研究 川村嘉応
- ・第4回全国漁港漁場整備技術研究発表会 (2005年10月 指宿市)
微細気泡噴流装置による有明海奥部サルボウ漁場の底質改善試験
田中勝久, 岡村和麿, 藤田孝康, 森勇一郎
- ・第2回貧酸素水塊ワークショップ (2007/3/15 佐賀大学) 有明海佐賀県沿岸域の底質と底生生物 (マクロベントス) の経年変化 梅田智樹, 伊賀田邦義